

主 題：教会の建て方2

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章11-16節

初めてお会いした人に自己紹介をして職業が牧師であると言ったときに、必ず、不思議そうな表情をされます。その理由の一つは一般の人たちに牧師という仕事への理解がないからでしょう。ですから、「私は牧師です」と言うと、いったい何をなさるのですか？という質問に発展して行くことがあるのです。それはそれで面白い会話になるのですが、確かに、日本においてはそのように牧師がどのような者か分からないということは理解が出来ます。ただ、残念なことに、そして、悲しいことに、実は、多くのキリスト教会の中にあっても同じ状況を見ることがあるのです。つまり、教会にあっても、教会でさえも、牧師がいったい何をする人たちなのかということにおいて大きな混乱があるのです。一般的な教会において、牧師は教会に雇われている人、教会に雇用されている職員とそのように考えられています。それゆえに、教会に雇われている職員である牧師は、教会の事柄をしっかりと務めなければいけないと考えられる訳です。多くの牧師たちは自分たちの仕事を説明してくださいと、その職務をリストにしてくださいと言われるなら、このようなものを上げるかもしれません。毎週日曜日、礼拝の時に必ずメッセージをする、朝、そして、夕拝があるならば夕拝も含めてそのメッセージは牧師がする。聖書研究会があるなら、それらすべての聖書研究会は牧師が教えるべきものであり、家庭集会、祈祷会、その他何であろうと牧師がしっかりとそれをしなければならぬ。伝道はもちろん牧師の働きであって、だれがどこで話をしていても、牧師が行くことが出来るとするなら、その場に出て行ってそこで伝道をしないとイケない。実際に、ある教会では、だれかが個人的な伝道を家でしていると、牧師に電話が掛かってきて「先生、すみませんが、今、伝道しているので来てもらえませんか？」と言われます。また、カウンセリング、これこそ牧師がしなければいけない、問題を抱えている人たちに対してカウンセリングをするのは牧師でなければ出来ませんと言います。それゆえに、そのための働きを全部しなければいけない。それだけではありません。例えば、もし何か大きなイベントが教会で計画されるなら、それを管理し準備し円滑に進むように導くのは牧師の責任ですと言います。また、教会の建物を管理し整備し修繕したり、電気、ガス、水道の料金を払ったり、また、日曜日に皆さんが来るに当たって、心地よく礼拝が出来るように教会を掃除するのも牧師の働きですと。皆さん、どう思いますか？実際にそのような教会はたくさん存在します。

彼らは雇われたその職務に沿って働きを一生懸命している、奉仕の働きを熱心に行っている、なぜなら、牧師が奉仕しなければいっただれが奉仕するのですか？と言います。確かに、多くの忠実で熱心な方々が、人々のこの期待のもとに、その概念のもとに、熱心に教会の働きを為して来られました。私はそれに対して何か異論を唱えようとは思いません。それは素晴らしい働きだと思います。ただ、本当にそれが教会の牧師たちがすべき働きであるのかどうかという点においては、私はおおいに異論を唱えたいと思います。もし、今上げたような様々な事柄を熱心に行うことが牧師の役割と捉えるなら、それは教会において牧師たちが何をしなければいけないのかを教える聖書の教えから大きく踏み外していること、大きく間違えて捉えていることだと思うのです。一般的に、そのように人々には牧師の働きが分からないだけでなく、教会においても人々は牧師は何をするべきなのかが分からない、実は、牧師たちの間でさえも、その混乱が今現在大きく広がっているのです。

彼ら牧師たちは今、自分たちが教会という非常に大きな団体、組織の、いわゆる様々なプロジェクトを管理するための、プロジェクトマネージャーであるかのように自分たちを捉えているのです。出来るだけ素晴らしいプログラムを提供し、それを提供することによって、毎週、多くの人たちが礼拝堂にある椅子を埋め尽くすことが出来るように、新しいことを考え、より魅力的なプログラムを作り、それをしっかりと運営して行くことが出来るようにします。皆さん、知っておられますか？多くの神学校、著名な神学校では、実に、そのことを大切だとするゆえに、様々な神学のクラスを生徒たちに教えるのを止めて、ビジネスのクラスを提供します。マーケティングのクラスを教えるのです。なぜでしょう？そうすることによって教会の周りにいる人たちの求めていることをしっかりと理解し、求めていることを提供することによって人々が多く教会に来るようになるためです。なぜ、そのようなことが起こるのでしょうか？それは教会の成功が教会のサイズによって決められると捉えられる傾向が余りにも強くあるからです。

では、聖書が教える牧師の本当の働きとはいったいどのような働きなのでしょう？聖書は教会のリーダーたちにいったい何をなさいと教えているのでしょうか？なぜ、教会に牧師という存在があるのです

よう？私はここ数ヶ月、教会に関して非常に強い関心をもって学びをしています。特に、教会全般もそうなのですが、それ以上に、この浜寺聖書教会のことを考えるのです。私たちは本当に皆さんといっしょに神が求めている神の教会を建てているのかどうか？本当に私たちは神の設計図に沿って教会を建て上げているのかどうか？神が願っている教会とはいったいどんなものなのか？そのことを考えずにはおられないのです。今朝、皆さんといっしょある一つの箇所を見始めて行きます。非常に重要な箇所です。教会がどういうものであるのかを考える上で、この箇所を抜きにして語ることが出来ないだろうと思います。今、見始めると言ったのは、本当は一回で全部を終わらせる予定でしたが、学んでいるうちにとても一回では終わらなくなったからです。けれども、大切であるということを理解してください。そして、なぜ大切であるのかを皆さんに知っていただきたいのです。今日、皆さんといっしょに見て行くのは、教会のリーダーたちと、そして、彼らがなぜ教会に与えられているのかということなのです。私が心から願うことは、皆さんがこれらの事柄を正しく理解し、教会に与えられているリーダーたちとはいったい何なのか、何のために与えられるのかをしっかりと知っていただくことです。そして、その目的に沿って教会がしっかりと建て上げられるときに、私たちの教会は神に喜ばれるすばらしい教会になるのです。それは間違いありません。なぜなら、神がそのことを約束されているからです。

☆教会に与えられているリーダーの役割

教会はどのような教会になるべきでしょうか？教会に与えられているリーダーたちはどのようなリーダーたちであるべきなのでしょう？彼らは何のために存在するのでしょうか？今日、皆さんといっしょにそのことを見て行きます。エペソ人への手紙4章11-16節を見てください。そこにはこのように記されています。

- :11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。
- :12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、
- :13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。
- :14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく、
- :15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。
- :16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

A. キリストは教会に賜物を受けた人たちを与えた

パウロはここで私たちに教会について非常に大切なことを教えてくれています。まず、私たちが最初に見たいこと考えたいことは「キリストは教会に対して賜物を受けた人たちを与えた」ということです。パウロはこのエペソ人への手紙と呼ばれる手紙を書いて、最初の3章を特に教理的な事柄について記して来ました。具体的に言えば、それは救いの教えであり、そして、教会という奥義に関する教えでした。そして、4章から6章に至るまで、この手紙の後半部分を書いて行きますが、そこでは特にクリスチャンとしての人生に関して、実践的な事柄に焦点を置いて内容が書かれています。さらに、もっと具体的に言うなら、この4章から6章においてパウロが一つの大きな焦点として提示していることは、信徒たちが主の前にあってその召しにふさわしい歩みをして行くということです。そのことが4章の最初に記されていました。「:1 召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」、4:17にも5:1、2、8、15にも、この「歩んで行く」という概念が繰り返されています。パウロはこの4章から6章において、エペソの教会の人たちが主の召しにふさわしくクリスチャンとしてしっかりと生きて行くことが出来るようにと願っていたのです。そのことがこの後半部分における焦点だったのです。そのことを記すに当たってパウロは、4:2-6でこの歩みが「謙遜と一致に基づく」ものであると教えています。それを通して、どのような歩みが召しにふさわしい歩みなのかを示したのです。また、パウロは7-10節で信徒に与えられているキリストの賜物について話をしています。

1. 教会に与えられた四つのグループの賜物についての説明 11節

そして、その文脈の中で、私たちは今から見ようとしている11節からの箇所を見出すのです。確かに、7節には「しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」とあり、「ひとりひとり」ということばによって私たちは、もしかするとパウロがここからすべてのクリスチャンに与えられている様々な賜物のリストを、Iコリント12章のように、上げるのではないかと想像するかもしれません。しかし、パウロはここでは敢えてそのことをしないのです。「一人ひとりにこのような賜物があります。こんな賜物が与えられているのです。」というリストを記すのではなく、パウロは

ここでは、四つのグループの人たちを上げているのです。賜物を与えられた四つのグループの人たちです。そして、この文脈を通して私たちが見ることができるのは、これらの四つのグループの人たちは、キリストから賜物を与えられ、彼らは教会全体のためにこの与えられた賜物を用いなければならないということを教えているということです。

パウロがここから記していることは、個人個人のクリスチャンにこのようにありなさいということよりもむしろ、「教会としてあなたがたが生きて行くのはこのような方向です」ということです。召された召しにふさわしくあなたがたが歩んで行くために、あなたがた一人ひとりがこのような人物へと変わって行くために、キリストが何をしたか、確かに、一人ひとりにも賜物を与えたのですが、特に、これら四つのグループに属する人々を教会全体の賜物として与えてくださったのです。

実際に、11節を見るとそのことが確かに教えられています。残念ながら、私たちが使っている新改訳聖書では11節に出て来る動詞が「お立てになった」と訳されています。確かに、このように訳すことも可能ですが、実は、ここで使われている原文の動詞は8節に出て来る「分け与えられた」ということばと全く同じことばが使われているのです。つまり、ここでパウロが言っているのは「キリストがお与えになった」ということです。キリストは一人ひとりに「キリストの賜物を量りに従って」与えられたのですが、11節でパウロが言うことは「これらの人々をお与えになった」ということです。しかも、パウロはここで非常に強調したことば、表現を使っています。実際に直訳するとこのようになります。「そして、彼は(キリストのことを指していますが)、彼ご自身は、ある人々を使徒として…お与えになった。」と。キリスト、キリストご自身がそれをしたのだと言うのです。それによってパウロは読者たちに、間違いなくキリストからの賜物として教会がこれらのギフトを与えられているということを理解させようとしているのです。そのことを知って欲しかったのです。

確かに、ここには具体的な対象が記されていません。つまり、賜物を与えられたのがだれかということとは具体的には記されていませんが、それはこれまで見たように文脈が明らかにします。だれが得たのでしょうか？それは聖徒たちが得たのです。教会が得たのです。教会に与えられたのです。パウロはここで教会のことを考えていたのです。いったいどのように聖徒たちが、クリスチャンたち一人ひとりが自分たちの召しにふさわしく歩んで行くことが出来るようになるのか、そのことを考えたときにパウロは言うのです。「そのためにキリストは賜物を教会にお与えになったのだ。教会にはすばらしいギフトが与えられている」と。いったい、どのようなギフトが与えられているのでしょうか？パウロは四つのグループに分かれる人々を上げています。

2. キリストが教会に与えた賜物 11節

1) 使徒たち

キリストは使徒たちを賜物として教会にお与えになりました。このエペソ人への手紙2章で、パウロはすでにこの「使徒たち」について記しています。2:20「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」、使徒たちは教会の土台だったのです。そして、彼らがしたことは3:5-6に記されていますが、彼らは啓示を受けて教会の奥義を人々に示したのです。「この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。:6 その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。」、彼らは神からの直接的な啓示を受けて、教会がどういうものなのか、クリスチャンはどのような人物なのか、クリスチャンとしてどのようにこの地上での生涯を全うすべきなのかを人々に教えたのです。彼らはすばらしいギフトでした。キリストが教会にお与えになったすばらしい賜物です。なぜなら、彼らが私たちが信じている信仰の基礎、真理のその教理を与えてくれたからです。彼らが新約聖書の基だったのです。神が彼らに啓示を与え、彼らがそれを書き記し、彼らはそれを宣べ伝え、人々がクリスチャンとして生きて行くことができるその土台を築き上げたのです。

もし、使徒がいなかったら教会には土台がありませんでした。土台のない建物はすべて倒れてしまいます。彼らは土台として私たちが信じなければならない教理、神学をしっかりと勧めてくれたのです。彼らは確かに主によって個人的に召された者たちであり、この働きのために独特な訓練をされて、準備を整えられた者たちでした。それゆえに、この使徒職は何世代にも亘って受け継がれるものではありませんでした。なぜなら、彼らの働き、責任、彼らの責務は教会の土台を据えることだったからです。彼らは世界の至る所に出て行って福音を宣べ伝えました。そこで教会を建て、人々に神の真理、新約聖書の真理を宣べ伝えたのです。人間の歴史の中にあつて、教会の歴史の中にあつて、使徒たちほど重要な人物はいません。私たちの生涯において使徒たちほど強い影響を与えた人間はいません。なぜなら、彼らの教えによって私たちは変えられているからです。彼らが語った真理を私たちが知ることによって、聖霊の働きを通して、私たちは変わって行くのです。キリストは私たちにすばらしい賜物をお与えなっ

たのです。これこそがキリストの賜物でした。

2) 預言者たち

ここでこの四つのグループの人たち、使徒、預言者、伝道者、牧師また教師と呼ばれる人たちは単数形に見えますが、実際は、これは全部複数形です。使徒たち、預言者たち…と。「預言者たち」とはいったいどのような人物なのでしょう？彼らも私たちの生涯に欠かすことが出来ない大切な人たちでした。キリスト教の歴史の中で彼ら抜きでは私たちの信仰は継承して行きませんでした。なぜなら、先ほど読んだエペソ2：20にもあったように、「**使徒と預言者という土台の上に**」私たちは建てられているからです。新約時代の預言者たち、彼らは何をしたのでしょうか？3：5をもう一度見てください。「**この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、**」と、預言者たちにも啓示されていたのです。彼らも直接的な啓示を受けて、その受けた啓示を人々に伝えていたのです。それゆえに、彼らの働きは使徒の働きと同様に、私たちの教会の土台を据えるものであり、私たちの信仰生活の根幹を築くものであり、私たちに神が求めている真理を教えることだったのです。預言者たちは往々にして使徒たちの後に教会の中に現われてきました。使徒たちがまだキリストが伝えられていない町にやって来てそこで福音を宣べ伝え人々が救われます。そして、教会が建て上げられるとそこには預言の賜物を受けた信徒たちが出て来るのです。使徒たちはそこで一生懸命働きを為し、救われた人たちを集め、教会を成長させ、教会のリーダーたちを任命します。そして、使徒たちは次の町へと出て行くのです。残った教会はどうしますか？まだ、新約聖書は完成されていませんでした。まだ、神の啓示は明確に具体的な形で今のように示されていませんでした。使徒たちがいなくなった後、その教えを為したのが預言者たちです。

彼らはその地域の教会に留まり神の啓示を人々に教えることを通して、クリスチャンがどのように生き、教会がどのようにあり、神の栄光を現わすためにその召しにふさわしく歩んで行くために、どのように生きなければならないかを、それぞれの状況に合わせて教えていった者たちだったのです。事実、新約聖書はすべて使徒たちによっては書かれていないことをご存じですか？使徒でない人たちも新約聖書を書いているのです。彼らはなぜ新約聖書を書くことができたのでしょうか？使徒でないのにどうして神のことばを書くことが出来たのでしょうか？彼らにそれが出来た一番の理由は、彼らが預言の賜物を受けていたからです。彼らは預言者だったのです。だから、もし預言者がいなかったなら、教会に神が預言者を与えていなかったら、私たちは完成した新約聖書を得ていなかったのです。

預言者は教会の賜物でした。彼らは使徒たちが出て行った後で、それぞれの地域の教会において救われた人たちが、しっかりと信仰に立って成長して行くことが出来るように、彼らを教え、神の真理を示す働きをしていた者たちなのです。だから、使徒たちと同じように、私たちは彼らに負うところが大きいと思いませんか？彼らがいなかったら私たちの信仰は揺らいでいたのです。なぜなら、彼らも土台を据えていたから、教会の奥義を私たちに教えてくれたからです。そして、私たちは今、新約聖書という形をもってその恩恵をまさに受けているのです。

次に移る前に、このことははっきりさせなければいけません。それは今現在、使徒も預言者も存在していないということです。理由は簡単です。彼らの働き、彼らの職務は教会の土台を据えることだからです。土台を据えた後に土台を据えますか？必要ないのです。土台が据えられた今、ましてや新約聖書が完成し、神が私たちに伝えようとするすべてのことがここに記されているとするなら、彼らはもう啓示をする必要がありません。それゆえに、このような特別な賜物をもった人たちによって私たちは教えられる必要はないのです。けれども、彼らが行なって来た働きは続きます。別の働きがあります。彼らの一番の責任であった土台を据えることはもう終わりましたが、彼らは教会の土台を据えた後もその働きが続いて行かなければいけないことを分かっていたし、キリストはそのために使徒たちや預言者たちが去った後に、他の人たちを教会に賜物として与えていたのです。それが3番目と4番目のグループの人たちです。

3) 伝道者たち

私たちはこのことばをクリスチャン用語として教会の中でよく使います。皆さんこの「伝道者」をどのように定義しますか？「伝道者」とはどういう人でしょう？そこには様々な概念があるかもしれませんが、いろいろな定義がそこから生まれて来るかもしれません。なぜなら、現代のキリスト教会にあって、伝道者とは何者なのか、何をやる人なのかということにおいて、多くの混乱があるからです。でも、聖書的に見ると、非常に単純明快な定義を付けることが出来ます。伝道者とは「キリストが知られていない所でイエス・キリストを提示する人」です。キリストが伝えられていないところでイエス・キリストを宣べ伝える人たちです。これはまさに使徒たちがした働きでした。使徒たちは出て行ってキリストが伝えられていない所でキリストを宣べ伝えたのです。そして、彼らが去った後、この働きは伝道者たちが行ない続けて来たのです。今もその働きが為されています。非常に興味深いことは、パウロがその人

生の終わりに、自分の働きを思ってその働きを次の世代へと託そうとしました。そして、パウロはその働きのバトンをある人物に渡すのです。テモテに渡しました。それを渡すに当たって、そのときにパウロはこのように言ったのです。Ⅱテモテ4：5「しかし、あなたは、どのようなばあいにも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。」パウロが自分の使徒職を終えて今まさに天に戻ろうとしているそのことを考えた時に、自分の働きを託そうとするテモテに対して言ったことは、「どうぞ私の使徒としての働きをしっかりとやってください」ではなく、「伝道者として働きなさい」でした。なぜなら、これがこの後継承して行く働きだったから、続いて行かなければいけない働きだったからです。

では、いったい伝道者の具体的な働きとはどんなものでしょう？マッカーサー先生は非常に簡潔により説明をしてくださっています。「伝道者の働きというのは、キリストをまだ信じていない人々に対して、キリストにある救いという良い知らせを宣べ伝え説明することである。」、難しいことではありません。けれども、皆さん、伝道者の働きというのはここで終わらないのです。この後見て行くことですが、キリストはこの11節で、教会に対して賜物として伝道者を与えたと言いました。何のために？それは「救いの働きをするため」と書いてありますか？書いていません。「**聖徒たちを整えて**」と言います。私たちはこの部分で大きな誤解をしているのです。「伝道者」に対して私たちがもっている概念は、もしかすると人々が興味をもって止まない五つのすばらしい福音のメッセージをもっている人で、その人はその五つのメッセージを語って、次の町から次の町へと渡り歩く人たちと考えているかもしれません。でも、伝道者の働きはそのような働きではないのです。伝道者の働きは「聖徒を整えるための働き」なのです。使徒たちを見てください。先ほどから何度も言っていますが、使徒たちはキリストが伝えられていない町へ行ってキリストを宣べ伝えました。まさに伝道の働きをしたのです。伝道の働きをしたときに人々が救われました。その後、使徒たちは「では後は頑張ってください」と言って出て行きましたか？行かなかったのです。パウロや他の使徒たちは、その町に留まってその教会へと繋がってくる救われた人たちをしっかりと成熟させ、成熟した人たちの中からリーダーを任命して、彼らに働きを託してから出て行ったのです。

それゆえに、伝道者の働きはキリストをまだ信じていない人たちの所に出て行って、キリストにある救いを宣べ伝え、それを説明するだけでなく、彼らが集まり、教会を形成し、その教会の中にいる人たちが成熟することを見て、彼は次の町へと出て行くのです。これが伝道者です。もし、伝道者が既存の教会で働きをするなら、彼らはこの地域にあって、救いを得ていない人、救いをまだ聞いていない人たちの所に積極的に出て行って、そこで救いを宣べ伝え、救われた人たちがいるなら、その人たちを教会へと誘って、そこで彼らが成熟するのを見届けるのです。その働きに携わるのです、これが伝道者です。聖書は一度たりとも私たちに「福音を宣べ伝えるならそれで良いです」とは言わないのです。神の関心は必ずしも救いにあるものではありません。神の関心は人が天国に行くか行かないかではないのです。神の関心は、人が救われてその救いの召しに沿って人々がキリストに似た者へと日々変わり続けることです。イエスは宣教命令で何と言いましたか？「伝道しなさい」でしたか？イエスが言ったことは「弟子を作りなさい」でした。弟子を作ることがすべてなのです。私たちは出て行って福音を伝え、人が救われたら「ああ、よかった、さあ次の人に行きましょう」ではなくて、救われた人がしっかりと信仰に立って成熟した者になるように働きを為して行かなければいけないのです。

そのためにキリストは伝道者を教会に賜物として与えたのです。彼らは喜んで積極的に効果的にキリストを聞いたことがない人たちの所に出て行ってそれを宣べ伝えます。そして、彼らは人々に救いの喜びを示し、彼らが救われるなら、教会へと誘い、彼らの成長のために働き続けるのです。すばらしい賜物だと思いませんか？彼らがいなかったら、教会の働きはどんどん悪いものになってしまいます。救うことだけが目的ではなく、救われた人たちが成長して行くようにとそれがキリストの目的だったのです。

4. 牧師また教師たち

最初に言わなければいけないことは、ここで言っているのは、二つの別々の人たちのことではありません。「牧師また教師」ということばの「また」は、むしろ点「、」、あるいは棒「-」でつないだ方がいいかもしれません。つまり、牧師は教師なのです。一つの人たちのことを言っているのです。一つの職をもった人たち、牧師・教師という人たちです。そのことはギリシャ語の文法的に私たちが理解できることです。この牧師・教師たちもキリストが賜物として教会にお与えになったと言います。地域教会において、その群れを牧する、養う働き人のことです。彼らの働きは預言者たちの働きに似ています。使徒たちが伝道者たちへとバトンを渡したとするなら、預言者たちは牧師・教師たちにそのバトンを託したのです。伝道者たちは使徒たちのように教会に留まるよりもむしろ、他の場所に出て行くことが多かったのです。けれども、伝道者たちが去った後、教会においてその教会の中に属する人たちを養い育てたのは、預言者の働きを継承して行ったような牧師・教師たちであったのです。彼らは教会に留まって、その群れが成長するために働きを続けたのです。

確かに、私たちは牧師ということばをキリスト教会の中で頻繁に使います。他のタイトルはほとんど使いません。ですから、皆さんが長老、監督と聞いた時に違和感をもつのは、私たちが一般的にこの職に就く人を牧師と呼んでいるからです。でも実は、新約聖書の中ではこの人たちを牧師と呼ぶの方が稀なのです。新約聖書にはこのことば、ギリシャ語で「ポイメン」と言いますが、「ポイメン」ということばが18回使われています。15回は福音書の中で、パウロが1回ここで使っています。そして、ヘブル人への手紙で1回、ペテロが1回使っています。皆さんご存じのように福音書の中には「牧師」のことは出て来ません。福音書に書かれているのは実際の「羊飼いです。ヘブル人への手紙もペテロの手紙も、このことばは「大牧者であるキリスト」を指して使っています。イエスご自身、ヨハネの福音書10章で「わたしは羊飼いです。」とこのことばを使うのです。このことばが人間である教会の牧師に相当する人物に使われているのはここだけなのです。なぜ、これが使われるのでしょうか？字義的に捉えるのと同じように、つまり、羊飼いが自分の群れの世話をすると同じように、教会の牧師たちは、正確に言うなら長老と呼ぶ方が正しいのですが、教会の長老たちはその群れをケアし養う責任が与えられている、そのことを言わんとしているのです。

具体的にどのような働きがあるのか、パウロはそのことをより明確にここで説明しています。なぜなら、単に牧師たちと言うのではなく、パウロは「牧師また教師たち」と言いました。つまり、パウロがここで特に焦点を当てていることは、キリストが教会のために賜物として教会に与えたすばらしいギフトは、教える長老たちです。教える働きをしている長老たちです。それゆえに、パウロはテモテへの手紙の中でこのように言っています。Iテモテ5：17「よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。」、この働きのために長老たちは与えられたのです。牧師・教師たちが教会に与えられたのです。彼らは教えることによって羊たちを養う働きをしたのです。キリストは聖書に記されている事柄を教会の一人ひとりがしっかり理解することが出来るように、そのために教師たちを与えたのです。すばらしい賜物です。彼らの働きは、群れを教え群れを導くことなのです。

私たちはこれら四つのグループに属するすべての人たちに大きな負債を負っています。そのように思いませんか？使徒たちがいなかったら私たちにはみことばがありませんでした。預言者たちがいなかったら私たちは具体的な指針を知ることもなく、みことばのその土台に基づいて教会を築き上げることが出来ませんでした。伝道者たちがいなければ、牧師たちがいなければ、私たちは今ここにこうしていませんでした。そして、みことばをより深く知り、キリストに似た者となるための召しにふさわしい歩みを実際に生きて行くことが出来なかったでしょう。キリストはこのようすばらしい賜物を教会に与えてくださったのです。

皆さん、私たちはそこで止まれないのです。なぜなら、聞かなければいけないことがあるからです。それは「キリストはなぜ彼らを与えたのですか」ということです。目的があるはずですが、教会にこのような賜物を与えたのでしょうか？もうすでに、この答えはここで何度も話していますが、この質問の答えを正しくもつことは非常に重要なことです。なぜ、キリストは教会に使徒を与え、預言者を与え、伝道者を与え、牧師・教師たちを与えたのでしょうか？その理由が12節に記されているのです。

3. これらの賜物が与えられた目的 12-16節

キリストは賜物を受けた人々を教会にお与えになりました。そして、キリストは賜物を受けた人々を一つの目的のために、一つのゴールのために教会に与えたのです。そのゴールとはいったい何でしょう？パウロは非常に癖のある文章を書きます。これはパウロの文章を原文で見たことがある人は皆同意して下さるだろうと思います。パウロは文章を短く終わらせることが非常に苦手な人なのです。いつも文章が長いのです。この11節から16節まで、最初に読みましたが、そこを見ると日本語の聖書には四つの終止符〈〉があります。でも、原文を見ると終止符は一つしかないのです。実は、11節から16節までは一つの文章なのです。でも、翻訳上、私たちがこの文章を理解するために、日本語に直すに当たって、どうしても〈〉が必要なのです。そうしなければ混乱してしまうからです。長い文章は非常に理解し難いのです。これはパウロの癖です。興奮すると止めることが出来ない、それがパウロなのですが…。

そのパウロがここで言わんとしていることを考えたときに、理解するためには確かに〈〉が必要なのですが、〈〉があることによって、このように区分けしてしまうと分かりにくくなることのあるのです。何のためにキリストがお与えになったのかを知るに当たって、実は、非常に分かりにくいのです。しかし、原文ではとてもはっきりします。実際に、12節を原文で見ると、もし、皆さんに見る機会があったなら、皆さんがギリシャ語を理解することが出来るなら、最初に気付くことは12節には実は動詞が一つもないということです。もう一つ気付くことは12節には三つの前置詞によって、三つの部分に区分されているということです。三つに分けられているのです。初めに一つが使われて、二番目と三番目

は初めとは別の同じ前置詞が使われているのです。そのように区分されているのです。

これは私たちに何を教えているのでしょうか？ 12節は実は、11節の完全な続きであることを教えます。そして、最初の前置詞で目的が記されていて、二番目と三番目でその目的をより細かく説明しているのです。だから、前置詞によって三つに区分されているのです。そのことを私たちがはっきりと理解するならば、この部分は非常に分かり易くなります。キリストは何のために四つのグループの人たちを教会に与えたのでしょうか？ 目的は一つだけです。唯一のゴールがあるのです。それがこの12節の冒頭に記されていることです。12節「それは、聖徒たちを整えて…」とあります。「整える」、先ほど、私は動詞がないと言いました。ですから、敢えて直訳すると「聖徒の装備」、または「聖徒の準備」と訳すことが出来ます。あらゆる必要なものを身につけるということです。実は、この「整える」と訳されていることばは、確かに、このように動詞的に目的を表わすように訳すことが可能でそれは正しいことなのですが、パウロは「整えるためです」と言っています。実は、このことばは非常に珍しいことばで、新約聖書にはこの形としてはここにしか使われていません。このことばの単語の同じグループに属する動詞が、聖書の中には実は13回使われているのですが、それでも少ない方です。その動詞はこのような意味をもっています。「回復させる、完全に作る、準備する、しっかりと正しく並べる」という意味があります。このことばは当時、医療関係の仕事の中で、例えば、骨折している人の骨を接ぐ、骨を正しく治すという、そのような時のために使われていたことばなのです。このことばがもっている語源の意味は「ふさわしい、元の状態に戻す、完全に作る」です。事実、ある翻訳ではこの箇所が「聖徒を完全にし」と訳されています。完全に作るという概念がここに含まれているのです。

皆さんご存じでしたか？ パウロが働きをするに当たっていつも考えていた目的は、まさにこのことだったのです。コロサイ1：28にはこのように書かれています。「**私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、…**」目的です。なぜ教えるのですか？ 「**すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。**」、完全に作るためだと言います。実は、ここでは違う単語が使われているのですが、言わんとしていることは非常に似ています。近いのです。何が違うのか？ コロサイでパウロが言っているのは、成熟した人物です。成熟した人物がキリストの前に立っているのです。エペソでは、与えられた賜物である人たちが教会で働くに当たって、人々を整えよう、成熟するに当たって必要なものを全部備えて行くという、そこに向かって行く姿が概念としてあるのです。完全とされた人ではないのです。「**整える**」こと、パウロはそのことを働きの目的としていつももっていたのです。

パウロにとってこれ以上に彼が働きをした理由はありませんでした。テサロニケ人に記した手紙の中で、テサロニケから離れていたパウロは彼らに会いたくしてしようがないという思いを伝えていたのですが、Iテサロニケ3：10でパウロはこのように言います。「**私たちは、あなたがたの顔を見たい、信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています。**」、ここで書かれている「**不足を補う**」ということばが私たちが今見ているこの単語のグループのことばです。動詞です。完全にしたい、あなたたちは欠けたところをもっているけれども、私があなたがたに会ってしたいことは、私がその欠けたところを全部整えてあげて、全部備わったものにしたいと言っているのです。また、コリントに書いた手紙の中でパウロは第一コリントの16章を書いた後、そして、第二コリントも13章を書いて、その最後にコリントの人たちに言うのです。IIコリント13：9「**私たちは、自分は弱くてもあなたがたが強ければ、喜ぶのです。私たちはあなたがたが完全な者になることを祈っています。**」、パウロが願っていたのは「**あなたがたが完全な者になること**」です。パウロがコリントの教会の人たちに求めたことは、彼らがあらゆる必要なものを装着し、準備の整った者として完成に向かってその生涯を歩んで行くことが出来るようにということです。それがパウロの働きであり、それが使徒たちの働きであり、それが預言者たちの働きであり、それが伝道者たちの働きであり、それが牧師たちの働きなのです。

パウロはさらに言います。IIコリント13：11「**終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。…**」と。皆さん、牧師たちが為さなければいけない働き、教会のリーダーたちが為さなければいけない働き、それは教会をスムーズに運営することでは絶対にありません。それはこの究極的な目的を達成して行くときに起こってくる副産物であるかもしれませんが。でも、教会のリーダーたちがしなければいけない働きは、教会が上手く運営されるための働きではないのです。キリストはそのために彼らを教会に賜物として与えたのではないのです。教会のリーダーたちの働きは聖徒たちを整える働きです。彼らが自分たちの召しにふさわしい歩みをしっかりと生きて行くことが出来るように、神のみことばを正しく説き明かし、それを実践して行くことが出来るように、教え、励まし、ときに戒め、勧めて行くことです。もし、教会のリーダーたちがその働きをしていないなら、いや、もし、教会のリーダーたちが他のことに忙しくて、そのために必要な時間を作ることが出来ないとするなら、彼らは自分たちの存在目的を一切果たしていません。もし、教会が伝道者や牧師たちに対して、そのために必要な時間を備

えないとするなら、教会は自ら自分たちの教会の建物を破壊していると言っても過言ではないでしょう。なぜなら、神の教会は建て上がらないからです。

もう少し話したいことがあります、言わなければならないことがたくさんあります。次回、この続きを、この「完成する」ということに関して、そして、そうなったときにどうなるかということに関してもう少し皆さんと一っしょに見たいと思いますが、皆さん、よく考えてみてください。教会に賜物として与えられた人たちがその役割を果たしていないそのとき、どうなるのでしょうか？パウロは「**聖徒たちを整える**」と言いました。すると、何が起こってくるのか、聖徒たちは「**奉仕の働き**」をするのです。そして、キリストのからだである教会が建て上がって行くのです。信仰の一致が起こり、知識の一致が起こり、人々が成熟して行きます。キリストに似た者へと変わって行くのです。彼らは幼い者のようにあらゆる事柄に右往左往させられることがなく、しっかりと真理に立って人生を歩み、愛をもって真理を語るのです。確かに、伝道者は伝道をします。牧師も伝道します。でも、牧師や伝道者が伝道しなくても伝道の働きは進んで行くのです。なぜなら、信徒が整えられて行くと、信徒一人ひとりが聖書を知らない人たちに、キリストを知らない人たちに愛をもって真理を語るからです。救われた人たちに対して互いに真理をもって励まし合い、慰め合うのです。カウンセリングが起こるのです。そして、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるのです。

皆さん、神が求める教会を建てようと思うなら、キリストが神の教会のために与えてくださった賜物である人たちがその役割を果たさなければいけないのです。そこから教会は建て上がって行きます。皆さん、どうですか？建て上がっていますか？私はこのことを考えたとき、正直、恐れおののきます。今日、皆さんにこのことを話すに当たって、私は正直膝が震えます。問題は、皆さんがこのことばに対してどうするのかということよりも、私がこの教えに対してどうであるのかを問われているからです。真剣にみことばを学んでいるのでしょうか？真剣にその教えられたみことばを実践して生きようとしているのでしょうか？真剣にキリストに似た者として模範を示して生きて行こうという人生を、皆さんの前に歩んでいるのかどうか？失敗ばかりです。主の前にひざまづいて悔い改めることばかりです。でも、願わくは、神の恵みによって皆さんには言いたいと思います。「どうぞ、私を見ならってください。」と。パウロがなぜそう言ったのか、パウロがそうしたからです。それこそまさに彼らの働きだったのです。

皆さんどうぞお祈りください。私や近藤先生のために。リーダーとしてみことばを教える働きに携わるすべての人たちのために。彼らがみことばを学ぶ時間を割き、みことばを理解する時間を、労力を惜しむことなく、学んだことをしっかりと実践し生きることを通して皆さんの模範となることが出来るように。そして、どうぞ私たちを励ましてください。皆さんが変わって行くことを通して。